

[COMMUNION]

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.html>E-mail: comm.tko@nsk.org

PHONE: 03-3433-0987

FAX: 03-3433-8678

Diocesan Office



平和メッセージ

すべての戦争は不義

正義と平和協議会議長

司祭 アモス 金 大原

リル総大主教は
西欧文化の影響

でウクライナが

2022年2月24日にロシアがウクライナに侵攻し、全世界が激浪に巻き込まれている。その理由がどうであれ戦争を正当化することはできない。無辜（むこ）の命の殺傷と人権蹂躪、日常の破壊をどうして説明することができようか。すべての戦争は不義であり、どんな場合でも解決策にならない。

キリスト者たちはロシア正教会の首長であるキリル総大主教に戦争中止のための役割を期待していた。宗教を抑圧していた共産主義時代と違って、ロシア正教会を国家アイデンティティー構築の求心として活用しようとするプーチンへの善い影響を期待するのは当たり前のことだった。しかし、期待は失望に変わってしまった。去る3月2日、正教会の教会暦で「赦しの主日」であるこの日に、キ

道徳的に墮落したと指摘した。すなわち、ウクライナが千年間も保ってきたロシアの純粋性を離れ、道徳的に墮落した西欧に加担しようとしたのがこの戦争の原因であり、墮落を懲らしめ、立て直すための戦争は正しいと言って、

この破壊的な戦争を神聖な戦争と認めたのだ。

愛である

神の名で他人

人を憎み、憐れみ深い方の名をもって残酷な行為を行い、平和の源である神の名をもって戦争を起こし、命の造り主である神の名をもって命を破壊する現実を正当化するのは、世界中のクリスチャンは驚きおののいた。パスカルは「人間は、宗教的信念に基づいている時程、もっと完全で楽しく悪を行うことはない」と言っ



た。墮落した宗教が平和の敵になる現実を目撃した。

でも、いづどこにも希望はあるもの。心が温まるニュースを見た。ポーランドは数百万人の避難民を受け入れ、国境地域で数多くのボランティアが食糧と服を配るなど、人道的な支援を惜しまなかった。その中に印象深い場面があった。

数十名が車を

一か所に停め

ておき、手に

地名が書かれ

た札を持ち上

げていた。避

難民をそこま

で連れて行くボランティアだったのだ。その中で一人の男の札には、地名だけでなく車と家、人と数字の6が書いてあった。その地域まで車に乗せて連れて行くのはもちろん、6名家族に生活できる家まで提供するという意味だった。このポーランドの善きサマリア人から、道であり真理であり命であるイエス・キリス

トの姿が伺えた。

戦争、テロ、暴力がどんなにひどくても、愛の灯、良心の灯火が消えずに燃え続けている限り、まだまだ希望はあると言えるだろう。「傷ついた草を折らず、くすぶる灯心の火を消さず、忠実に公正をもちたす」（イザヤ42:3）神様が平和のために働くすべての人びとを守ってくださいようにと祈る。

「国々が剣を鋤に、槍を鎌に打ち直し、国が国に向かって剣を上げず、もはや戦いを学ばない世界を夢見た」（イザヤ2:4、ヨエル4:10、ミカ4:3）旧約時代の預言者たちにならい、また「平和を造る人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである」（マタイ5:9、10）と言われたイエス・キリストの呼びかけに応えて、世界のすべてのキリスト者が和解と平和の働き人となるようにと祈るのである。

シリーズ 北関東の教会 ②
どうぞ、おいでください

新町聖マルコ教会

伊勢 共栄

新町聖マルコ教会はJR高崎線新町駅から歩いて10分ほどの閑静な住宅地にあります。

新町聖マルコ教会の歴史は玉村（現在の佐波郡玉村町）での伝道に端を発しています。東京赤坂病院に入院中に母親の医師ホイットニー氏



との交わりの中でキリスト教に触れた内山氏は、玉村に戻った後、自宅を改築し会堂としました。1897（明治30）年頃、ドーマン司祭と吉村大次郎伝道師がこの会堂に講義所を開き、これが後の玉村聖マルコ教会となりました。

1909（明治42）年、エバンス管理司祭は新町橋場町132番地に講義所を開き、新町聖マルコ教会の宣教が開始されました。1911（明治44）年、新町字並町2849番地の土地と家屋を購入し、玉村礼拝堂は新町に移され、礼拝堂と牧師館を建築することとなりました。同年10月29日、礼拝堂はマキム主教によって聖別され、新町聖マルコ教会と名付けられました。

1926（大正15）年、ベシー・マキム女史を園長に新町聖公会幼稚園が開園しました。1973（昭和48）年、教会及び幼稚園は現在地に移転し、幼稚園は新築されましたが、宗教法人のまま苦し

い運営を続け、2006（平成18）年に閉園しました。

1980（昭和55）年、礼拝堂新築がなされ、

同年9月21日に斎藤茂樹主教により聖別されました。

本年4月24日に、新町聖マルコ教会では、高橋宏幸主教による今年度最初の主教巡杖及び堅信式がありました。新町の教会としては約10年ぶりに行われた堅信式でした。主にある新しい家族を迎え、聖堂内は喜びに包まれました。

前橋聖マツテア教会

石守 晃

前橋聖マツテア教会は群馬県庁や前橋地方裁判所に程近い、旧前橋城の一角にあり

ます。当教会の歴史は1889（明治22）年2月24日、旧制前橋中学に英語教師として赴



第3代蒔田主教按手式記念写真

す。また1945（昭和20）年8月5日の前橋空襲では、聖堂、宣教師館、築5年の幼稚園舎などが灰燼に帰しましたが、聖堂の建て直しは1952年、内外の寄付を得て、1940年5月11日の北関東地方会（教区会）の議決の通り、「マキム主教記念聖堂」として再建されました。

一方、1948年1月26日の同記念聖堂設立委員会で、前橋に北関東教区大聖堂を置くことが決められます。管区11の主教座聖堂の中で最も小さい聖堂ですが、第4代大久保主教から第9代廣田主教までの北関東教区主教と現在の管理主教高橋主教まで7代に亘る主教座聖堂として時を刻んでいます。昨年4月に福田弘二司祭が赴任し、12月5日には新築なった信徒会館と牧師館が高橋主教より祝別され、新たな歩みを踏み出しています。

日光真光教会

久保田 智

日光真光教会の現聖堂は、1916年8月6日に

聖別され、北関東教区内に現存する最も古い礼拝堂です。設計者は、立教大学の前身である立教学





あります。

校の第3代の校長として、米国聖公会から派遣されたジェームズ・M・ガーディナーで、日本各地の教会堂や学校施設、大使館などの設計を手がけた建築家でもあります。

建築様式は重厚な印象のゴシック式建築で、彼の晩年の代表作です。外壁は近くを流れる大谷川（だいやがわ）などより採取された安山岩の乱石積み、内壁は板橋石の平張り、屋根を支える梁はシ

ザーストラストが採用されています。簡素で落ち着きのある中に、聖壇上部のラファエロ・サンツィオによる絵画作品「キリストの変容」をモチーフとしたステンドグラスが目を引きまします。また聖堂西側の四人の福音記者とキリスト教諸聖人のシンボルのステンドグラスも見応えがあります。現在この礼拝堂は栃木県の指定有形文化財に定められ、また、有名な日光東照宮などのある世界遺産地域に隣接し、大通り沿いに位置しているため、多くの観光客や建築家たちが見学に訪れます。



ガーディナーは近くに自分の別荘を建てるほどの日光大好き人間であって、遺言により礼拝堂内の聖書朗読台前の床下に愛妻フローレンスと並んで眠っています。

この礼拝堂は高い天井と石壁の内壁が相俟って音響効果が極めて大きいとされ、毎夏行われる東京藝大バツハカンタータクラブによる特別演奏会は、関東一円に多くのファンを持っています。

ご来訪の折は、管理人に一声お掛けいただければ、さらなる魅力をお伝えできるでしょう。

宇都宮聖ヨハネ教会 司祭 金山 昭夫

宇都宮聖ヨハネ教会は1891年、T・S・チング司祭によって宣教が開始され、1911年「宇都宮聖ヨハネ教会」として認可された。現在の礼拝堂は、

1933年聖別されたもので設計者はガーディナー建築事務所の神林敬吉である。鉄筋コンクリート造りに地域の特産の大谷石を外壁に張ったゴシック様式の礼拝堂で、内部の架溝はシザートラスとなっており、全体に簡素であるが、梁



組みがリズミカルな空間を創出し、礼拝堂の北東部の鐘楼がアクセントとなっている。幸いにも戦災を免れたため、内外部の扉や窓部などの

調度品や礼拝堂より古いとされる米国S T社のオルガンを含め、すべてが当時のままの姿で現在へ伝えられており、国や市の登録有形文化財に指定されている。

また、地域の方々にも開かれた聖歌隊アイノスが活動しており、チャリティーコンサート等が定期的に催されることもあり、多くの観光客や地域の方々を訪れている。（現在は新型コロナウイルス対策のため休止中）

付帯事業として1911年創立の認定こども園愛隣幼稚園（大谷石積の園舎外観は当時のまま）を併設しており、キリスト教精神に基づく幼児教育を行っている。

現在の牧師は、マタイ金山昭夫司祭で、聖職候補生から司祭按手までを過ごした当教会に3年前に15年ぶりに赴任した。Google Mapの口コミによれば「とっても優しい司祭さんがい



らっしゃいます」とのことなので、コロナが収まった際には、ご検証のためにもぜひお尋ねいただきたい（笑）。

高崎聖オーガスチン教会 清水 透

東京より100キロ北西、群馬県高崎市に高崎聖オーガスチン教会は在ります。

高崎市は、古くから交通の要衝で、江戸時代の中山の分岐点でした。

西は、軽井沢、長野県を抜けて京都へ、北は、沼田に行き街道が分かれ、新潟県や日光へ、東は、足利を経て、宇都宮から東北地方へと街道がつながっています。



そのため、明治期は陸軍15連隊が高崎城の跡地に置かれ、連隊記念碑や城の石垣、お堀が残され、城下町の面影が残っています。

高崎聖オーガスチン教会に訪れた際には、観光もお楽しみできます。

高崎聖オーガスチン教会は、1892（明治25）年、吉村大次郎伝道師の宣教活動から、歴史が始まりました。

現在の地、「高崎市山田町8」に落ち着いたのは、1914（大正3）年のこと

です。

長屋風建物を建築し、「講義所」「幼年水曜学校」を開設し、その後、1926（大正15）年には、教会付属「聖光幼稚園」の設立につながります。（現在は、閉園）

現在の聖堂は、1929（昭和4）年、「市内初の鉄筋コンクリート」の建物として建てられ、同年12月21日にジョン・マキム主教によって、聖別式が行われました。

その後、聖堂は、2008（平成20）年に国の有形文化財に登録されました。閉園後の幼稚園建物は、フリースクールや障がい者のアート活動等、地域活動の拠点として、活用されています。

2019（令和1）年には、北関東教区の信徒の皆様にご尽力いただき、新たに聖堂修復（祈りの家）、会館改修（集いの場）が整えられ、宣教の拠点となっています。

栃木聖アルバン教会

工藤 正己

1 環境

1990年に竣工・聖別された現在の礼拝堂は、小



大吉伝道師が大アンデルス司祭やカールセン女執事とともに羽村就久氏の家で家庭集会を始めた時にさかのぼる。1931年に大久保直彦伝道師（当

江戸とも小京都とも呼ばれる「とちぎ蔵の街」の中心に位置する観光地にあり当教会に隣接する旧栃木市役所別館や県庁堀、巴波川（うづまがわ）の美しい風景と相まって1994年に第1回ふるさと景観賞を受賞した。又、旧栃木市役所別館は2022年4月に栃木市立文学館として改装され山本有三、吉屋信子、柴田トヨの文学者など栃木市ゆかりの文学、歴史、美術などを紹介する施設としてオープンしたばかりである。私たちはこのように歴史のある風光明媚な場所で礼拝の恵みにあずかっている。

2 沿革

栃木宣教の起源は1914年（大正3年）に足利在住の額賀

時）が赴任された。1941年には北関東教区主教として按手された時田誠主教が当地にある北関



東教区主教館に在任し大久保直彦司祭（当時）が主教秘書及び栃木伝道区の各教会を司牧された。1947年4月に時田誠主教が東京教区主教に就任、同年10月に北関東教区主教に大久保直彦司祭が按手され1931年以来1976年の定年退職まで当教会に在任された。

3 現状

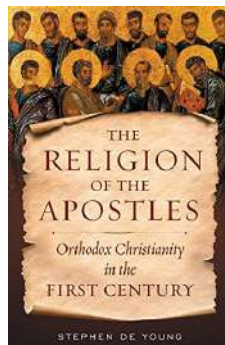
当教会は平岡司祭が2020年6月から司牧されている。当教会は近年高齢化が著しくそれに伴い礼拝出席者も現在堅信受領者ベースでは2011年度は21名で10年後の2021年度は8名と激減している。以上の事実を直視しつつ歴史のある当教会を維持していくためにも今後、自分にできることを精一杯遂行しなければならぬと考えている。

【司祭の二冊】

「THE RELIGION OF THE APOSTLES」

ステファン・デ・ヤング著
司祭 プラント・トーマス

英国国教会は、しばしば教義があいまいだと非難されますが、それは不当です。宗教改革以来、英国国教会の教えは、聖書と祈禱書という2冊の本によって定義されています。ルーテル派やカルヴァン派の教会には、創立者の名前がつけられています。私たちは「克蘭マー派」と呼ばれていないので、それらの教会とは異なり、英国国教会は、一人の創立者が



作った信仰告白に基づいてはいません。聖公会によれば、聖書と祈禱書の解釈は、説教集や聖歌集に示されています。すなわち、私たちの信仰は聖書に基づいているのですが教本よりも典拠によって解釈され、教えられているのです。結局、聖公会は、教会が元から聖書と典拠の両方に基づいているという主張の上に成り立っているのです。

残念ながら、この主張は16世紀からの西方教会のカトリックとプロ

テストメントの論争によって影を潜めてしまいました。このような論争の場合、東方教会の伝統に目を向けることは有益であり、現在の国際状況が正教会の神学を顧みるきっかけとなっていることは間違いないです。デ・ヤング神父の新作は、正教会の弁証論として書かれたものですが、西洋のキリスト教徒にとっても価値のある本です。教会の典礼生活は、もともと単純で「聖書的」な信仰から後半に発展したという現代の考え方に反し、デ・ヤングの主張は、初期のキリスト教徒は元から、エルサレム第二神殿のユダヤ教の儀式と典

の業を連続し、礼拝を行ったとするものです。正しければ、現在の聖公会が行なっている伝統的美的な礼拝は、キリスト教の元からあった優先事項でした。

この本は、聖公会の信徒が反対するようなことは少ないと思いますが、正教会の神学を聖公会的に概観するには、前大主教ローワン・ウィリアムズの最近のエッセイ集「Looking East in Winter」が（困難ではあっても）読み応えのあるものです。

ハレルヤ新しい歌を主に向かって歌え
笹森新主教誕生

北海道教区主教按手式に参列して

田中 まき

4月23日（土）、北海道教区主教座聖堂にて笹森田鶴主教の主教按手式が行われました。

私は、配信の字幕担当で北海道へ参りました。新千歳空港から電車で札幌駅に行くまでののんびり、のどかな風景を見て、「これから小さな笹森主教がこんなに大きな北の大地で、心細やかにお仕事をするのだなあ」と思うと、感慨深いものがありました。



按手式の日には爽やかに晴れた日でした。式には約140名の参列があり、またオンライン配信され、国内外約400名もの方々が参加されました。その数に驚き、感動いたしました。北海道教区の皆さまが待ちに待った主教按手式。私が何よりも嬉しく感じたのは、参列された皆さまの笑顔と、喜びに溢れていたことでした。



笹森新主教は、少し緊張された様子でご挨拶をされました。

一言一言、ご自分に言い聞かせるように、皆に届くようにお話をされている姿を見て心打たれました。「北海道教区の皆さまに信頼し、わたくしをお捧げするため、皆さまと新しい神の家

きりとご自分の任務についてお話しされ、笹森主教の決意の固さを改めて感じました。

東京教区で毎日笑顔で楽しそうにお働きになっていた笹森先生。遠くに行かれ主教様になられても、心の中ではいつも「田鶴先生、健康に注意してがんばって！」という気持ちでいっぱいです。笹森主教のこれからの働きの上に神さまの豊かなお恵みとお導きがあるようにお祈りいたします。

主よ、今こそみ言葉のとおり

司祭 上田 亜樹子

「男性であること」が司祭按手の必須条件であった法規第20条の文言が、1998年に変更されてからもうすぐ25年。被選挙権が「男性」に限られることのなくなった当然の結果として、今年4月23日に、笹森田鶴師が主教に按手され、北海道教区主教として着座されました。日本聖公会のみならず、東アジア地域での初の「女性」主教誕生は「新時代の幕開けだ」という喜びの声も聞きますが、「新時代」が今年から急に始まったのではなく、蹴られても潰されても「わきま

えなかった」人々の忍耐、その存在さえ否定されても、人を恐れなくて神さまを畏れ、信仰を揺るがすことのなかった人々の祈りが支えた必然なのだと思います。言い方を替えれば、神さまが油注がれた者が、真つ当に按手されたこと、それがとりあえず素晴らしいのだと思います。

その一方で、課題がないわけではありません。聖餐式で司式する「司祭」を「女がやる」という視点でしか捉えられない人々、そもそも「男性」以外の司祭按手に難色を示す教区、主教按手の証に名前を連ねなかった現職主教、笹森師が主教按手を受けたことで「女性問題」は解決したと考える人々。これらの課題を無視せずに、主教職を全うしなければならぬ笹森師の前途は本当に多難です。

それでも武藤謙一首座主教は、礼拝の中のご挨拶で「笹森師が」抱えることになるかもしれない悩みや葛藤は、笹森師ひとりに負わせるのではなく、主教会全体の問題として一緒に負っていきたい」と語りました。日本聖公会という組織として、またわたしたちひとりひとりの意識に

おいても、引き続き担っていくべき課題は山積みです。さまざまな困難が待っていることは事実ですが、神さまが始められた業を、そのみ恵みとみ力に信頼



し、苦しみながら悩みながら担い続けることで、遠く北海道に生きる笹森師と連帯できるのではないでしょうか。

笹森田鶴先生 主教聖別、着座
おめでと〜いいます

「女性」が教会を考える会・東京

小林 幸子

4月23日の北海道教区の主教聖別・着座式の時、YouTubeの配信を見ながら、「同意します」「支持します」と叫んでいました。これまでのいろいろな事が思い出されています。

「女性」が教会を考える会は、

1988年

に発足。考
える会が目
指してきた
ビジョン
は、「新しい
パートナー
シップを通
して教会に



豊かないのちと働きを」でした。教会のすべての働きに男女の別なく、神の召命に応じる道が開かれることのために活動してきました。1998年の日本聖公会総会で法規改正が実現し、1999年1月6日に笹森田鶴先生と山野繁子先生が東京教区で司祭按手を受けられました。そして2022年日本聖公会で初め

ての「女性」の主教が誕生しました。

「何という恵み、何という喜び」でしょう。按手した主教たち、立ち会った聖職・信徒だけでなく、多くの先達によって、そして後から続く人たちによって、共有される歴史的出来事なのです。

これまで教会の意思決定機関へ平等に「女性」が参画する

ことが求められてきました。主教会のメンバーになることは、その一歩です。まだ

ジェンダー差別と闘う状況がありますが「誰もが神の前では等しくされている」ことの証であると思います。

笹森主教の誕生は、聖職として働こうとするすべての「女性」たちへの大きな希望であり励ましです。先生を主教として召された神さまに感謝し、強め支えて下さいますよう祈ります。

(写真提供 北海道教区他)

新しい任地に遣わされて

私たちの国籍は天にあります

東北教区主教座聖堂 仙台基督教教会

牧師 司祭 ヨハネ 八木 正言

聖愛教会、三光教会、池袋聖公会、そして立教大学（立教学院諸聖徒礼拝堂）と、東京教区でお



世話になった月日のうち、半分以上の時間を立教大学チャプレンとして過ごさせていただきました。クリスチャンではない学生たち、大学教職員との出会い、そして協働の時間は、多くのことを学んだ私の聖職としての財産になっています。

2014年、東北教区に向向、福島聖ステパノ教会、若松諸聖徒教会、郡山聖ペテロ聖パウロ教会、小名浜聖テモテ教会の牧師・管理牧師を経、2020年10月から主教座聖堂仙台基督教教会牧師、磯山聖ヨハネ教会管理牧師として奉職しつつ、11教区の中でも比較的多い、16の幼稚園を擁する東北教区にあって、幼稚園チャプレン、聖公会東北教区保育連盟の仕事にも携わらせていただいています。やはりここでも、子どもたち、園の先

生たちとの協働から多くのことを学んでいます。

大学チャプレン時代もそうでしたが、できるだけ教会（業界）用語を用いずに、しかも今は言葉そのものが難解である子どもたちに向き合い、どうやって神さまの存在を感じ、好きになってもらうのか…「奮闘」の日々です。

信徒数も聖職数も、残念ながら右肩下がりの現状にあって、東北教区内幼稚園の全園児数は、2014年以降微増、もしくは現状を維持、900人前後で推移しています。転勤などの際に「引越先でも聖公会の幼稚園に通わせたい」という嬉しくも有り難い保護者の声を聞くことも少なくありません。園の運営が保護者の負担軽減に特化しているわけではないのに、数ある保育園や認定こども園ではなく、聖公会の幼稚園になぜお子さんを預けてくださるのか、その理由を、感謝に留まらずに可視化し言葉にすることが目下の課題です。私の「財産」の用い方であり、聖公会という教会（建物でなく宣教共同体として）の「これから」に活かせると思えるからです。

「私たちの国籍は天にあります」（フィリピの信徒への手紙3:20）。宣教協働区制が始まった今はおさら、私たちが意識的にも無意識的にも「引いて（しまつて）いる枠線」を取り除いていくことが求められているようにも思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

聖オルバン教会牧師

司祭マイケル・D・モイヤー



私は、米国ペンシルバニア州ポッツタウンで生まれ育ちました。男3人兄弟の長男です。15歳の時に聖職に呼びかけを感じて、人生の計画を立てようとしたが、人生は私の計画ではなく、主の計画に沿って来た様です。

私は地元のコミュニティー大学で準学士号を取得し、メイン州バンゴール市にあるバンゴール神学院に入学しました。この神学院は、私が子どもの頃から所属していたキリスト連合教会の神学院でした。しかし、そこで初めて聖公会教会の礼拝に招かれ、すぐにそこが私の精神的な拠り所だと感じるようになった。

りました。バンゴール神学院を卒業後、メイン大学で学士号を取得しました。

聖公会の神学院で学位を取得していなかったため、米国エビスコパル教会で聖職に就く際には、聖公会の神学院に通うことが要求されました。私はナシヨタ・ハウス神学院に入学し、1996年に卒業しました。1997年、私は6月に執事に、12月に司祭として按手されました。今年、私は聖職に就いて25年を迎えます。

私が初めて聖職に就いた教会は、テキサス州フォート・ワース市の諸聖徒聖公会教会でした。そこは、教区立学校のあ大きな教会でした。私は司祭補佐として、他の2人の司祭補佐と学長と一緒に働いていました。諸聖徒聖公会教会の牧会活動に加えて、小学校4年生の宗教の授業を教えることが任務となりました。そこで2年近く働きました。

その後、メリーランド州ベリン市にある聖パウロ教会の司祭となりました。ベリン市は、海と海水浴場からわずか12キロ足らずのところに

ある美しい小さな町です。ここで私は23年近く司祭を務め、地元や教区のさまざまな委員会やミニストリーに積極的に参加しました。

2003年7月、私は片親として息子を養子に迎えました。当時の彼は6歳でした。今は彼が結婚しており、今年の4月に私はめでたくおじいさんになりました。

また、私はOGS「善き羊飼いのオラトリオ」という、聖公会の独身男性のための修道会に所属しています。OGSは1913年、ケンブリッジ大学の3人の司祭によって設立されました。OGSでは、「7つのノート」と呼ばれる法則（親睦、自由、受託責任、知性の働き、心の働き、平和をもたらし愛、自制心、そして喜び）に基づいて生活しています。私は今年で10年目のOGSメンバーになります。

メリーランド州での長年の奉仕の後、聖オルバン教会での新たな奉仕を始めることになり、とてもわくわくしています。日本語が不自由な私ですが、聖職者同僚と共に精一杯働くこと

を楽しみにしています。

もちいてください

聖救主教会 副牧師

司祭 グロリア 西平 妙子



沖縄教区の聖アンデレ教会から4月に聖救主教会に参りました。東京教区でのご奉仕の機会が与えられたことを、本当に感謝いたします。聖救主教会は施設が沢山あり、まだ分からないこともありますが、少しずつ慣れていきたいと思っています。

先日、幼稚園の保護者の方に、どうして牧師になられたのですかと聞かれました。クリスチャンでない方でも、そのことに興味があるのだと知りました。どうして、聖職になろうと思ったのか、神さまの導きとしか、言いようがありません。ふわふわとした思いで高校生の頃、修道女になりたいと思ったことはあります。一生神様の傍にいて、ジャガイモの皮をむいて（勝手な思い込みです）暮らす生活に憧れました。修道女になるには、神さまからの熱烈的なコーリング（お呼び）があると思っていたので、求めることもせず、その思いもどこかにいってしまいま

した。

聖職の道へ進むきっかけとなったのは、観想黙想会でした。10日間、人とまったく話さずに、神さまだけに心を向ける時を持ちました。それは、自分自身を見つめる時間となりました。神さまの言葉が、蜜のように甘い祈りの時でした。しかしそのことが、直接には聖職になりたいという決心には、いたりませんでした。その後、勉強するだけでも良いと思い、神学校に行きました。卒業する時も、神さまに尋ねました。「聖職の道を行くべきでしょうか。」その答えのように、ある方から黒の祭服（キャソック）をいただきました。ヨナ書のヨナのように決心も覚悟もない私ですが、主がもちいてくださることを信じて、色々な方のお助けと祈りの中で、今ここに立たせていただいています。

昨年の10月20日にもらい事故で足首の骨折をし、今年1月には、病気が見つかり手術を受けました。心はいったって元気なのですが、しばらくは定期的に病院とリハビリに行きます。ご迷惑をおかけいたします。

《信徒リレーエッセイ》

教区合同堅信式

渋谷聖ミカエル教会

瀬下 真弘

2022年6月4日に聖アンデレ主教座聖堂にて教区合同堅信式がありました。幸いにも当教会からも二人の堅信志願者を送り出すことが出来ました。新型コロナウイルスの影響が残るなかにあつて開催いただけましたこと関係各位のご尽力に感謝です。

私は名親の一人として式に参加させて頂きました。インターネット等の技術で色々なことが出来る世の中になりましたが、堅信式で按手を受けるような対面でない体験できないことが多くあることを感じたように思います。

この文章を書いているのは6月ですが、今回のコミュニケーションが発行される頃には新型コロナウイルスが収束し色々なことが好転することを願うばかりです。

最後になりましたが、堅信式を受けられた皆さんおめでとうございます。



宣教協議会って何ですか？

1995年宣教協議会について

今回と今回の「ぶどうの枝だより」(教区報版)では、過去に開催された宣教協議会について振り返ります。今までどのような宣教協議会が開催されたかを思い返すことで、2023年の宣教協議会へ臨む気持ちを新たにできればと思います。今回は、1995年の宣教協議会について取り上げます。

この宣教協議会以前にも、日本聖公会では宣教に関わる協議会が開催されましたが、「伝道協議会」あるいは「宣教協働協議会」という名での開催でした。「宣教協議会」という名での開催は1995年の協議会からです。

そもそも、宣教協議会とは何でしょうか。今までに開催された協議会を概観してみると、次のように言うことができると思います。すなわち、「その時代

時代において、協議して方向性を定める必要がある宣教の諸課題について、日本聖公会全体としてなされる協議会」と。教会単位でもなく、また教区単位でもなく、日本聖公会全体としてということに大きな力点があります。

1995年の宣教協議会は、8月28日(31日まで、清里清泉寮にて開催されました。主題は「日本聖公会の宣教―歴史への責任と21世紀への展望」。戦後50年の節目にあたり、「歴史、世界、社会、民

衆の中で働いておられるキリストに生きる教会」が目指されました。参加者は184名でした。

塚田理司祭による主題講演「日本の歴史と宣教理解」や、ジョン・ボビー司祭による特別講演「21世紀への教会の展望―あらゆる場を変革するために―」が行われ、井田泉司祭によ



る聖書研究「『正義を行う』ことへの召し」がありました。また、祈りの集いの中の韓国、フィリピンからの証言や、女性障がい者、環境問題に関わる発題がありました。

これらの講演や証言、発題を受け、参加者による協議を経て、協議会最終日に「日本聖公会95宣教協議会宣言」が採択されました。

そこでは、「日本聖公会が戦争に加担した責任を痛みをもって自らのものとし、敗戦後、すみやかにこの責任を明らかに表明できなかった戦後責任を確認し(中略)その罪責を神の前に告白し、被害を与えた隣人の前に謝罪」し「懺悔」すること、また「日本聖公会は、差別、抑圧を生み出し支えている社会構造自体

を変革するための地の塩、世の光とならなければ」ならぬことが表明されました。また、同じく「日本聖公会95宣教協議会共同さんげ」が採択されました。

採択されたこれらの「宣言」、「共同さんげ」に導かれるかたちで、翌年の1996年第49(定期)総会において、「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」が決議されました。この

決議により、韓国・フィリピンをはじめとしたアジアの諸教会との交わりが深まることとなりました。またこの宣言は、1998年ランベス会議で紹介され、多くの国の人々に感銘を与えたようです。(宣教協議会実行委員 横浜教区司祭 北澤洋)

次回秋号
10月23日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア (五十二)

1. ゆるせない罪 (マルコ2:1-12)

牧師「家の屋根に穴をあけ、4人の友人は体の麻痺した人をイエスさまのもとにつりおろしました、すると、それを見たイエスはその人の罪をゆるし、病気もいやされたのです」

信徒「でも先生、いくらイエスさまといえども、勝手にはゆるせない罪があるんじゃないですか」

牧師「どういう罪でしょう」

信徒「建造物損壊罪です」

2. 山をうつす信仰

牧師「イエスさまは、からし種一粒ほどの信仰があれば山をうつすことができる、と言っています」

子ども「先生、それなら、私にもできます」

牧師「えっ、どうやってうつすのですか」

子ども「写真で！」

3. 迷える子羊を救う

道ばたで、ある人が牧師としばらく話をして帰って行った。

それを見た信徒が、

信徒「先生、今の方とどんな話をされていたのですか」

牧師「なかに牧師として一番大切な働き、即ち迷える子羊を救ってあげたのさ」

信徒「ちょっと、お話しただけでその人を救いに導いたのですか？」

牧師「そう、道に迷った人に駅までの道を教えてあげたんだ」